

〔研究領域〕 I 学校経営

第1分科会 経営ビジョン

〔研究課題〕 明確なビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進

〔視点〕

①子どもの未来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定

提案者 さいたま市立鈴谷小学校長 神 座 達 也

1 はじめに

さいたま市では、今年度の教育行政方針の中で「社会を生き抜く力を持ち、希望をはぐくむ教育の推進」を重点の一つに定めている。少子高齢化や情報化、グローバル化や技術革新等により益々変化が激しくなる時代を生き抜き、困難にあっても他と協働し、課題を解決していく児童の育成が求められている。各学校では、国や市の方針、学校や地域・保護者の願い、児童の実態等を考慮し、校長の強力なリーダーシップの下、明確なビジョンによって学校経営を推進している。そのビジョンは、子どもたちに身に付けさせたい資質能力を抛り所とし、学校のPDCAサイクルに位置付けていることが重要である。

2 本校の概要

本校は、学級数17（うち特別支援学級1）、児童数504名の中規模校である。校地は、埼京線南与野駅から徒歩8分ほど、国道463号線の北側に隣接し、東は春に桜満開となる鴻沼川、西は300年の歴史を有する高沼用水西縁に挟まれている。また、学区には樹齢1300年を誇る「与野の大かや」がそびえる環境豊かな学校である。地域の方の支援も厚く、後援会、育成会、自治会がボランティアやまつり等で多数来校していただき、大変協力的な地域である。

3 研究のねらい・視点のとらえ方

明確な学校経営ビジョンとは、イメージが容易であり、手立てや道筋が明示され、教職員の実態や地域の歴史を踏まえたものでなければならない。また、子どもの未来を見据えるため、教育実践と児童の実態を総括して課題解決を図る必要がある。本校の課題は以下の通りである。

【課題1】「目標とビジョンの整合」

【課題2】「よく遊び、よく学ぶ学校づくり」

【課題3】「PDCAマネジメントサイクルの確立」

4 実践の概要

【課題1】「目標とビジョンの整合」

校長は、学校のトップリーダーとしての確かな教育理念・見識に基づきビジョンを構想し、ゆるぎない信念と情熱をもって学校経営を進めなければならない。

一方で、赴任した学校には、既に学校教育目標や児童像、校訓やスローガン、学校経営方針など目指すべき指標が様々に存在することがある。本校の場合も同様で、変えるべき点と変えてはいけない点を見極め、整理統合や精選をする必要があった。

(1) 学校経営ビジョンの設定

- ① 学校経営ビジョンとして最も大切にしたい「よく遊び、よく学ぶ学校づくり」を「教育方針」と位置づけた。
- ② ビジョンのとらえ
 - ・「遊び」…体や心の躍動、触る、浸る、関わる活動
 - ・「学び」…知る、実感する、活用する、比べる活動
 - ・それぞれを「質よく・量よく」に整理し、学校教育目標から目指す児童像までの整合性を整え、図式化してブランドデザインを整えた。
- ③ 学校教育目標の価値づけ
学校教育目標が、本校は知・体・徳となつていたりことや教育方針に合致していることを再確認した。
- ④ 目指す児童像と校訓を整理統合した。
- ⑤ スローガンは廃止した。

＜学校教育目標＞

かしこく たくましく 心豊かな 児童の育成

＜目指す児童像＞

瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

かしこい子(知) すなおな子(徳)

たくましい子(体) つながる子(コミュニケーション)

＜教育方針＞ 「よく遊び、よく学ぶ」

	質よく	量よく
遊 び	笑顔きらきら輝く子 「すなおな子」	汗きらきら輝く子 「たくましい子」
	体を動かす・心躍る・触れる・浸る・関わる	
	徳	体
学 び	瞳きらきら輝く子 「かしこい子」	会話きらきら輝く子 「つながる子」
	知る・実感する・活用する・比べる	
	知	コミュニケーション

図-1

(2) 学校経営ビジョンの発信

上の表に教育活動を入れ、「大かやプラン」というブランドデザイン(図-1)を作成し、学校要覧や懇談会・学校評議員会用プレゼン、学校だより等に掲載して周知した。

(例) 学校だより挨拶のタイトル
H27.5 「よく遊び、よく学べでいこう！」

H27.6 「オフェンスとディフェンスでいこう！」

H27.11 「700時間を楽しもう」



- H27.12「子どもは風の子、学びの子」
 H28.5『『よく遊び』をよく考える』
 H28.6『『よく学び』をよく考える』
 H28.7「よく遊び、よく学ぶための『早寝・早起き・朝ごはん』」

【課題2】「よく遊び、よく学ぶ」学校づくり

(1) 経営ビジョンと教育活動

分かりやすいが漠然としているビジョンを明確化し実践化していくため、左の表のように整理し、かつ教育活動に落とし込んで示す必要がある。

- ア 量よく遊ぶ・・・700時間外遊びの奨励 [(朝10分+業間15分+昼10分) × 200日 × 6年間 = 42000分 = 700時間], 月1回のふれあいタイム (学級遊び35分 写真-1) や、隔週開催の体育朝会、各教科における体験的学習の充実、給食web日記の毎日更新等により、「遊ぶ」の量的充実を目指す。

写真-1



- イ 質よく遊ぶ・・・月1回の鈴谷っ子タイム (縦割り遊び35分), 年1回の鈴谷っ子フェスタ (縦割り遊び集会), 家庭の協力によるモルモットホームステイ (動物介在教育=通年毎週末), 読書タイム, 等により、「遊ぶ」の質的充実を目指す。

- ウ 量よく学ぶ・・・きらきらタイム (毎週水曜の朝学習にNIEとして新聞記事を活用したプリント学習), すらすらタイム (毎週月曜の朝学習, 算数の基礎・基本), 夏季休業中サマースクール (写真-2 夏季休業日当初3日間, プリント等学習) 等により、「学ぶ」の量的充実を目指す。

写真-2



- エ 質よく学ぶ・・・道徳授業の一斉公開 (学校公開日), 校内研修の充実により、「学ぶ」の質的充実を目指す。

(2) 「校内研修の充実」

学校経営の中核を成すものは授業であり、授業力向上には校内研修の充実が欠かせない。各校においても、校内研修では主題は継続的に扱い、教科や手立てという切り口を変えて深化充実させている。本校では、以下のような見通しや研修法を用いて、授業力向上に努めている。

① 学校課題研修の工夫改善

- ア 過去2年の「国語力向上」研究の成果検証を行い、児童の情意面の意欲向上や教師の授業力向上の意識を総合して国語科研修の継続を決定した。
 イ 身に付いた力の精査、及び全国・学力学習状況調査

の分析結果から、次の2年間で身に付けたい力を「読むこと」に設定した。

- ウ 研究授業中に参観者が「3行感想」を記入し、協議会で一覧印刷配布することで、全員の参加推進と協議論点の明確化・焦点化を図る。
 エ 全学年で自分事として研修が進められるよう、年間6本の研究授業を設定した。
 オ 他学年の教材研究や言語活動設定にも積極的に関与できるよう、指導案検討前に全学年による「勉強会-演習型研修」を取り入れ、言語活動の一部をシュミレーションすることで、「読む指導案検討」から「行う指導案検討」へ転換し、個々に力が付く、実践的な指導案検討を行う。

② 小・中一貫教育での研修

小・中一貫教育のモデル校指定を受け、夏季休業中に指導者を招いての合同研修会の他、年間の授業研究会や計画訪問の日程等を共有し、幅広く授業を見合い、児童生徒を見合う体制を敷き、9年間を見通して自校の子どもの状況を振り返る機会を設定している。

③ 第2研修 (仮) の設定

学校課題研修による授業力向上は大切だが、教職員が身につけるべき資質能力は多岐にわたる。本校では、単年度ごとに第2研修的な内容を設定し、数回の講師招聘や研究授業を行い、研究教科以外の教科や領域、特別支援教育等の識見を高める工夫をしている。昨年度は特別支援教育、本年度は体育である。授業力や対応力の幅が広がり、教科領域を超えた共通性にも気づくことができる。

【課題3】「PDCAマネジメントサイクルの確立」

ビジョンを明確にして経営を進めるには、PDCAのマネジメントサイクルを確立することが大切である。①前述のような手順でプラン (学校教育ビジョン) を立てる。②毎月の職員会議で、校長が経営方針の中から「今月の重点」を整理し配付・周知する。「よく遊び、よく学ぶ」の中で、その時期に合う教育活動を重点実施する。③校長の毎日の教室訪問や毎日の運動場観察により、学習規律やノート・板書、外遊び児童の状況等の把握によりビジョンへの達成状況を確認し、適宜教職員にフィードバックする。④研修評価や学校評価、学校評議員会等によって効果測定を行う。⑤研修推進委員会や教科等部会で改善策を設定する。⑥自己評価シートへの「よく遊び、よく学ぶ」に関わる視点の投げかけをする。

5 まとめ

各教科・領域において、「学習遊び」の中で獲得できる事が絶大であり、学びにも遊びにも波及することは自明である。それはよりよい生活習慣に支えられてこそ成立することも同様である。健全な遊び・学びと健全な生活習慣の両輪を、強い信念をもって教職員や保護者・地域に働きかけていくことが、私の使命である。今後も、子どもの未来を見据えてビジョンを見直し実践していく。

〔研究領域〕 I 学校経営

第1分科会 経営ビジョン

〔研究課題〕 明確なビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進

〔視点〕

②学校の役割を明確にした創造的な学校経営の推進

提案者 川島町立出丸小学校長 柳 澤 睦 夫

1 はじめに

「子供たち一人一人に、その子の花を咲かせる。」これが私の教育信条である。

教育とは、本来その子がもっているよさを伸ばすとともに、まだ、表には見えていない、その子の可能性を引き出し伸ばすことだと考える。これにより、子供たち自身が将来にわたって自己実現し続けることのできる力を身に付けさせるところ、それが学校である。

そこで、学校が家庭や地域の教育力を結集し、児童が仲間と共に学び、楽しく、時には苦しみをも乗り越えられるように、明るくきれいで、地域文化の核となる学校づくりに、全力で取り組んでいる。そのために、常に、新しい出会いを大切に、1年後の成果、そして10年、20年後の子供たちの姿を思い浮かべながら、計画的に教育活動を進めている。

本校では、明るく、元気よく、夢をもった児童、そして、郷土を愛する児童を育成していくことこそが、学校の役割だと考え、創造的な学校経営を推進している。

2 本校の概要

本校がある出丸校区は、比企地域、さらには川島町の最南東部に位置する。町名のとおりの周りを川が囲む『輪中の町』で、出丸校区は南に越辺川を挟んで川越市、北は荒川を挟んで桶川市、東は上尾市に隣接するという、周りを大きな市に囲まれつつも豊かな自然環境が、まだ豊かに残る自然環境抜群スポットのような地域である。町商工会でも、「都会に一番近い農村」を合言葉に豊かな田園風景の残る元気な町をアピールしている。

もともとこの出丸地域は、稲作を中心とした農村地域である。20数年ほど前までは、乳牛や畜産業を営みながらの農家も多かった。しかし、現在では畜産を営む農家が2軒残るものの、もっぱら「川越藩のお蔵米」ブランドの川島産米作りが、農家の主作物となっている。本町小・中学校8校の学校給食の米飯は、本町産コシヒカリでまかなわれている。また近年は、米作りと共に盛んであったイチゴ栽培農家も減り、一方で新しい特産物イチジク作りが、盛んになりつつある。

今年度、本校は8名の新入学児童を迎え全校7クラス、79名の児童、職員16名（町費職員含む）という小規模校である。

このような人そして、自然環境に恵まれた地域で、この地のよさを生かしながら、本校ならではの教育課程を編制、実施している。

3 本校の学校経営方針

(1) めざす学校像

本町の町民憲章に「川島の宝だ伸ばせ子供たち」と謳われている。そこで、めざす学校像を「公教育のねらいに基づき、児童が安全で楽しく充実した生活のできる学校」とし、次のように設定した。

- ・児童一人一人を大切にする学校
- ・毎日の授業を大切にする学校
- ・地域に信頼され、人権が尊重される学校

(2) めざす教師像

めざす教師像は、確かな人権感覚を身に付け、児童や保護者、地域の人から信頼される人間的魅力のある次のような教師である。

- ・教育愛と豊かな人間性を備えた教師（厳しさと優しさ）
- ・使命感と情熱を持った教師
- ・学び続ける教師

(3) 学校教育目標

なかよく かしくく げんきよく

～ 笑顔・元気・感動あふれ、郷土を愛せる出丸っ子 ～

◎【めざす児童像】

- ・なかよく……笑顔あふれる明るい子
- ・かしくく……学力の基礎・基本を身に付けている子
- ・げんきよく……心身ともにたくましい子

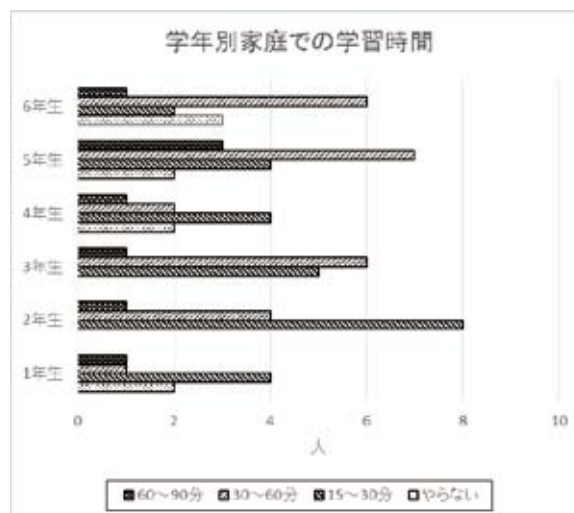
4 研究のねらいと方法

学校・家庭・地域が一体となって、児童のよさや可能性を引き出し伸ばす実践をとおしての研究

～ハンノキプロジェクトへの取組で

学ぶ意欲と豊かな心を育みながら～

本校の課題の一つに、学力の向上がある。下記のグラフは、本校児童の家庭学習時間を調査した結果である。



本校児童の家庭は、2, 3 世代が同敷地内、もしくはすぐ近所に住み、子育ても手厚く安定した生活環境の家庭が多い。しかし、児童が家庭で学習する時間を持たなかったり、家庭での学習習慣が身に付いていなかったりする児童がいる。保護者の教育に対する関心が高い家庭が多いものの、もう一方で、まったく関心を示さないという保護者がいるという事実が見受けられる。

家庭での学習時間が、児童の学力にそのまま影響しているとは言いきれないものの、児童が自ら学ぶことへの意欲や関心が高まれば、さらに学力の向上が図れると考える。

〈考察〉

- ・2, 3 年生以外に、まったくやらない児童がいる。
- ・「学年数字×15分」の目安を守れていない児童が多い。

これらのことを重く受け止め、児童が自ら興味や関心をもって学ぼうとする意識を高められるよう次のように取り組んだ。

(1) 一人一人の児童を認め伸ばす指導

- ① 確かな学力の向上
 - ・学力や体力の基礎・基本、学び方の定着のための指導等
- ② 規律ある態度や思いやりの心の育成
 - ・当たり前のことが当たり前でできる指導の徹底等
 - ・『かわじま』標語の学校と家庭での実践
- ③ 行事や諸活動の工夫による人間関係の醸成
 - ・“毎日が少人数指導”の実施と豊かな心の育成
- ④ 教師力の向上
 - ・普通の授業の質を高めるための授業研究会の実施等
- ⑤ 町教委作成・配布の「かわべえかわみんノート」を活用

(2) 特色ある活動と学校応援団の協力を得ながらの取組

- ① ハンノキプロジェクト活動の充実
 - ・国土交通省「三ツ又沼ビオトープ」を守る活動の実施
※ハンノキプロジェクトとは・・・
埼玉県のコウモリ『ミドリシジミ』のエサとなるハンノキを出丸小学校の児童が苗から育て三ツ又沼ビオトープへ移植し保護する活動を行っている。また、在来種植物を保護したり、外来種の植物を駆除したりする活動も行っている。
- ② 地域の方々、保護者の協力の充実
 - ・読み聞かせ、川島郷歌舞踊指導、毎日の登下校時のボランティアによる見守り活動等の協力
- ③ 児童のより豊かな体験の充実
 - ・郷土料理「呉汁」作り、芸術鑑賞会の開催、全校遠足等

(3) 安全できれいな学校づくり

- ① 施設・設備の整備
 - ・古くても、きれいで温もりのある施設・設備の保持
- ② 教育環境の整備・充実
 - ・意図的な掲示物と、歌声が響き、花いっぱいの校舎
- ③ 事故の防止
 - ・瑕疵事故ゼロを目指す取組と我が身を自分で守る指導の実施

5 これ以外の主な取組等

(1) 豊かな心の育成

- ① 学校行事等の充実
- ② 全教育活動を通じた人権教育
- ③ ノーマライゼーションの理念に基づいた教育の充実
- ④ 人間関係の醸成
- ⑤ 清掃活動の工夫
- ⑥ 2年後に統合する三保谷小学校との連携
- ⑦ 小・中学校及び高等学校等の連携の推進

(2) 体力の向上、健康安全の保持

- ① 外遊びの奨励
- ② 体育授業の充実
- ③ 業前運動の充実
- ④ 食育の充実
- ⑤ 安全指導（レインボーモータースクールの協力、県航空救助隊の協力、等）
- ⑥ 生涯スポーツの振興

6 研究のまとめ

(1) 成果

- ① 全国学力学習状況調査の結果から、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の間には、平成25年度以降、毎年10ポイント程度の高まりが見られている。また、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の間では、平成25年度に一桁の数値結果だったが、昨年度調査ではその5倍以上の値にまで伸びた。

これら、創意と活力に満ちた本校の特色ある取組を通し、児童の心の中に変容が見られてきたと考えられる。

- ② 15年間以上、卒業生から在校生にと受け継がれてきたハンノキプロジェクトへの取組を継続したことにより、児童の自然環境に対する意識が高まった。学習後、「あらかわ市民環境サポーター」に登録して活動する卒業生まで現れるようになった。
- ③ 昨年度、長年のハンノキプロジェクトへの取組に対して、林野庁長官より表彰されたことにより児童だけではなく、保護者、地域の方々の学校の取組に対する関心や意識も高まりつつあり、一層の協力を得易くなってきている。

(2) 課題

- ① 平成29年度末をもって、140有余年を越える本校の歴史に幕を下ろす。この取組が、新設校で取組を継続実施し、10年、20年後へと、この豊かな環境と自然を守る意識、啓発ともに取組を継続させて行く必要があろう。
- ② 2年後の閉校後も、新しく開校する学校で本取組を継続するために、下級生児童の意識を高めておく必要もあろう。

〔研究領域〕 I 学校経営

第2分科会 組織・運営

〔研究課題〕学校経営ビジョンの実現を図る活力ある組織づくりと運営

〔視点〕

①学校経営ビジョンの実現に向けた運営組織の工夫

提案者 さいたま市立川通小学校長 新井宏美

1 はじめに

グローバル化や情報化等、社会情勢が急速に変化する中で、さいたま市では、「社会を生き抜く力と希望をはぐくむ教育の推進」が学校に求められている。校長のリーダーシップのもと、学校の在り方や役割を見直し、自校の実態から課題を明確にし、変えるべき点と変えない点を見極め、重点化と効率化を図りながら、解決の方向を示すことが重要である。校長は時代の潮流を的確に見取り、子どもたちの未来を見据えた学校経営ビジョンのもと、活力ある組織、運営体制を築いていく必要がある。

2 本校の概要

本校は、さいたま市の東部に位置し、元荒川ぞいの田園風景の広がる豊かな自然に囲まれた環境にある。児童数は163名、各学年単学級の小規模校である。開校131年目を迎え、保護者、地域は、学校への愛着が高く大変協力的である。

3 研究のねらいと課題

学校にはさまざまな教育課題があり、教職員一人ひとりの力を結集して、解決を図る努力を続け、魅力のあるそして質の高い教育を推進していく必要がある。校長が、明確な学校経営ビジョンを示すことで、教職員の意識は一つの方向に向かい、最大の教育力となると考える。そのためには、学校経営ビジョンを、どのように教職員の中に浸透させていくか、教職員が組織の一人として自覚をもち、どのように学校運営に参画していくかが重要である。学校経営ビジョンを実現するための組織・運営の課題は、次の通りである。

課題A：ビジョンの共有化と指導の重点化

課題B：活力のある運営組織と仕事の効率化

課題C：校長の具体的な働きかけ

4 課題解決に向けた取組

（1）課題Aに対する取組

① 学校経営ビジョンづくり

校長は、さいたま市の掲げる教育ビジョンと本校の実

態、自らの教育理念を踏まえて、明確な学校経営ビジョンを示すことが大切である。着任してから、誰もが分かりやすいように、目指す学校像を「笑顔あふれ、希望をはぐくむ学校」として掲げた。ビジョンづくりでは、トップダウンではなく、教職員の願いも大切にしたい。校内研修、学習状況調査結果分析、学校評価等から、児童の実態を教職員で把握し、育てたい子どもの姿を明らかにした。「子どもに学ぶ力をつけたい」「自己肯定感をもちたい」という思いを目指す児童像に反映し、教職員の受け身の意識から、自分たちもかかわったという意識へと変えた。

② 学校経営ビジョンの共有化

ビジョンを教職員の中に浸透させていくためには、年度当初の説明だけでは難しい。そこで、次の取組を通して、教職員の理解を深め、共有化を図っている。

- ・グランドデザインを作成し、いつでも目にしやすい職員室、玄関に掲示している。
- ・学級、教科経営案では、目指す児童像を掲げ、具体的な方策、指導を立てさせている。学期末ごとに、振り返りをさせ、励ましや助言をしている。
- ・自己評価シート作成時や申告面談では、一人ひとりの職務・経験年数などを踏まえ、ビジョンと関連させた目標設定、個人や組織が取り組むべき方向性や役割を十分に話し合い、具体的な方策を考えさせている。そして、全教職員の間面談を実施し、達成状況の確認、指導助言をしている。

③ 指導の重点化の取組「学ぶ力をつける」

学校経営の中核である授業の充実、児童の学力向上は、全教職員で取り組むことで、大きな成果があがると考え、共通指導を行っている。

- ・川通小スタンダード（授業規律・学び方等）を作成し、授業の形を整え、授業内容の充実を図っている。
- ・これまでの研究の継続で「算数」の指導方法の工夫改善に取り組んでいる。
- ・算数ノートは、「学ぶ力」の思考力、判断力、表現力を伸ばす具体的な学習指導ととらえ、共通指導をしている。月1回の全校ノート検定を実施している。

- ・学校課題研修「特別活動」を通して、自尊感情をはぐくみ、望ましい人間関係づくり、ともに高め合う児童の育成を目指している。
- ・学力向上の基盤として、「家庭学習の手引き」と「健康カード」を活用し、学校と保護者が連携・協力して、家庭学習の定着と規則正しい生活習慣の確立に努めている。

(2) 課題Bに対する取組

① 校務分掌の軽重化と運営委員会の活用

重点目標に関連した校務分掌、職員の配置を考慮している。本校は、教職員の人数が少なく、一人の教職員が担う校務分掌等の役割が多く、複数でのチェック機能が働かないことがある。そこで、分掌の統合化及び軽重化を図ることにした。

分掌の構成メンバーを、主任と副主任、主任とブロック学年、主任と全学年と見直した。また、教科部会を複数同時に開くことが困難なため、部会での原案作成、検討等が十分に行えないことがある。そこで、運営委員会を活用し、提案事項を運営委員で吟味検討し、事前に回覧するなどを通し、職員の意識を高めている。

教科・領域等	主任	副主任	低学年・普通	中学年・音楽	高学年・体育・美術
国語・英語	大塚	栗原			
社会	栗原	村山			
算数	栗原	村山			
体育	村山	栗原			
音楽	栗原	栗原			
総合	田中	田中	1期2期	3期4期音楽	5期6期音楽
総合・英語	栗原	大塚			
保健体育(55期)	大塚	栗原			
安全指導	田中	栗原			
学校保健	栗原	栗原			
生涯学習	村山	栗原	1期2期	3期4期音楽	5期6期音楽
清掃	栗原	栗原			
図書	栗原	田中	1期2期	3期4期音楽	5期6期音楽
小中一貫	栗原	村山			

め、部会での原案作成、検討等が十分に行えないことがある。そこで、運営委員会を活用し、提案事項を運営委員で吟味検討し、事前に回覧するなどを通し、職員の意識を高めている。

② ブロック学年会、教師育成プロジェクトの設置

本校は、全校にかかわる教育活動は、全教職員で協力・協働している。しかし、単学級のため、学年会を開き、教材研究、指導方法、児童理解等の情報連携が図れない実態がある。そこで、ブロック学年の教員と本部教員を合わせたブロック学年会（3～4人）を、2週間に1回開くことを位置づけた。また、教職員の世代交代も課題である。教職経験の浅い教員向けの育成プロジェクトを設け、経験豊富な教員による授業公開、個別指導を行い、「誰もが、いつでも教え合う」学校あがりの教員育成に努めている。

③ 分掌のPDCAサイクルと効率化

校務分掌ごとの部会は、必要最低限に行っている。分掌によっては、担当一人が担っている場合もある。教職員の学校評価に、分掌主任が人事異動になると、引継が不十分で次年度の計画運営に困ることがあるという意見があった。また教職員の中には、前年度の踏襲のままでよいと考えている場合もある。そこで、今年度の分掌主任が次年度の計画まで作成するようにした。分掌の内容

を、「計画立案－実施－評価－改善－次年度の計画立案」のサイクルとした。このように進めることで、組織的に見直し改善を図り、次年度への引継や運営が円滑に行えるようになった。

(3) 課題Cに対する取組

学校経営ビジョンの実現に向けて、校長が具体的に働きかけ、ビジョンの可視化、校長の本気を示すことが、教職員の意識の高揚、保護者・地域の理解につながると考える。

① 学校経営ビジョンの継続説明

職員会議での指示・伝達事項、週1回発行する校長室だより等で、学校経営方針、指導の重点を、全教職員に具体的かつタイムリーに伝える。また、学校だより、学校公開日、懇談会、地域との連絡会等の折、学校経営ビジョンを繰り返し説明し、理解を深め、教育活動への協力の依頼をしている。

② 校長の授業参観シートと面談

校長は、毎学期1回、公開、研究授業以外で、授業参観をし、参観シートをもとに教員と面談を実施している。この面談では、「学ぶ力をつけるよい授業」の視点からの指導助言、児童の情報交換を行い、学期ごとの児童の変容、教員の指導力の向上に着眼し、児童と教員の成長ぶりを確認する機会としている。参観シートは、教頭、教務主任にも回覧して、教員育成の視点、育成の進捗状況の共有化を図っている。

③ ビジョンにかかわる講話朝会

講話朝会では、「希望をもち、学ぶ力をつける子ども」の具体像を示している。埼玉県・さいたま市ゆかりの偉人を紹介し、困難の中、勤勉と努力によって、一つのことを成し遂げ、人に希望と勇気を与える生き方やあり方を伝えている。また、「学校を支える人」との対話も実施している、これまで学校図書館司書、学校警備員のとなりや子どもへの願いを伝えている。講話朝会で話した内容は、児童や来校者が目にするように、校内に掲示している。

5 おわりに

学校経営ビジョンの実現を図るためには、校長は、明確なビジョンを示し、強いリーダーシップを発揮し、教職員の学校運営への参画意識をもたせることと、運営組織の重点化と効率化を図ることが重要である。これからも、教職員が一丸となって、「社会を生き抜く力と希望をはぐくむ教育」の推進に取り組んでいきたい。

〔研究領域〕 I 学校経営

第2分科会 組織・運営

〔研究課題〕 学校経営ビジョンの実現を図る活力ある組織づくりと運営

〔視点〕

②誇り高き子どもを育むための活力ある運営

提案者

三郷市立高州東小学校長

高橋英樹

1 はじめに

めざす学校像「家庭・地域に信頼される学校」～学力を伸ばす学校、秩序ある学校、体力をつける学校～の実現に向け、教職員一人一人の知恵を結集し、汗を流し子どもに愛情を、仕事に情熱をもって取り組む教職員集団のベクトルを一つに集中させるよう取り組んできた。そして「チーム高州東小」の全校体制で子どもたちが、失敗を恐れず、前向きに何事にもチャレンジし、自信がもてるようになり、「東小で学んでよかった」「高州・東町地区で育ってよかった」と心底から思い、学校、地域に誇りをもてるよう育成する。

その実現のためには、学校を活力ある組織にすることが、校長としての使命であると自覚し、覚悟をもって旗幟鮮明な学校経営を進めていく。

2 本校の概要

本校は、東に江戸川を挟んで千葉県松戸市、南に東京都葛飾区金町と隣接する、昭和55年開校の今年で創立37年目、三郷市で14番目の小学校である。私は、昨年4月、第12代目の校長として着任した。平成28年3月の卒業生を含めると、2,382名の卒業生を輩出している。地域に根ざした学校として、多くの卒業生を含めた地域の方々や学校応援団（平成26年度、優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰受賞）の方々、そして、PTAの皆様のご協力を頂き、教育活動を推進している。

3 誇り高き子どもを育むための活力ある運営の実践

「誇り高き子どもを育成するための活力ある運営」を行うためにまず、校長が学校・子ども・地域の実態を把握し、明確な目標をもち、教員・子ども・保護者・地域の理解を得て、その目標の実現に向かい関係者を巻き込むことが大切だと考える。以下、実践を述べる。

【思いやりと自尊感情を育てる】

主任等に異年齢集団活動、地域との交流を計画させ、思いやりや自尊感情を育成する。運動会では、保護者、地域の方々、教職員、児童が一体となって、「マイムマイム」を踊り、一体感が生まれ盛り上がる。また、一年生を迎える会では、「お誕生月なかま」を月毎のグループになり全校児童で踊ることで、体育館中が大いに盛り上がる。

運動会



児童会活動



けやきまつり



【東小に誇りをもつ愛校心を育てる】

本校は大半の子が南中に進学する。そこで東小に誇りをもつために、教頭が中心となり企画する「地域みんなでコンサート」（中学校1校、小学校4校）、教務主任が中心となり企画する「南中校区5校合同研修会」を実施する。また、本校のシンボル「けやきレンジャー」が存在する。

合同コンサート



合同研修会



けやきレンジャー



【地域の方への感謝の心を育てる】

学校応援団、おやじの会を活用し地域の教育力を教育活動に生かす。教頭が中心となり、教育計画に組み入れていく。東小フェスタ（PTAバザー）で高齢者を指導者として招聘しグラウンドゴルフ体験、算数教室で学力向上、学校ファームで農業体験を行っている。

グラウンドゴルフ



算数教室



学校ファーム



【家庭の声掛けで子どもに自信をつける】

家庭の教育力の向上なくして子どもの健全育成は図れない。教頭が中心となりPTA発の「家庭教育宣言・親子ルール」、教務主任が中心となり保護者向け「やる気新聞」（学力向上新聞）を発行している。また、毎時間、一人の児童が「算数日誌」を持ち帰り、学んだことを記入し保護者のコメントを添えて提出する。

家庭教育宣言



やる気新聞



算数日誌



【三郷の教育三つの宝を基盤として子どもを育てる】

三郷の教育三つの宝「授業規律」「日本一の読書のまち」「親の学習」を基盤として、教育活動を展開している。その結果規律が徹底し、読書好きな子が増えている。親の教育に対する関心も高まっている。

授業規律



日本一の読書のまち



親の学習



【七つの剣への挑戦を通して子どもを育てる】

三郷の教育「七つの剣への挑戦」があり、作文、読書感想文、感想画、絵画、調べる学習に関する各種大会へ挑戦させ、達成感を味わわせている。本校は、昨年度、調べる学習コンクール全国大会で奨励賞1名、今年度、青少年の主張作文コンクールで埼玉県小学校の部5名の入選の中に選ばれ「やればできる」を実現している。

七つの剣への挑戦



調べる学習



青少年の主張作文



【先輩の姿から東小の児童としての誇りをもつ】

教頭が中心となり、運動会にボランティアとして、南中生の協力を要請し用具係、寿席を担当させ、共に活動することで母校への恩返しの姿を学ぶことになる。先輩の姿が東小の児童としての誇りにつながる。

あいさつ運動



算数教室



運動会



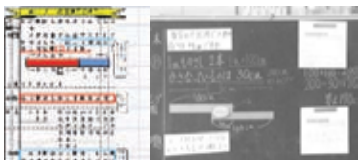
【学力をつけ自信から次へ挑戦する意欲につなげる】

学校の使命は「学力保障」である。「わかった」「できた」という喜びから、教員、保護者、地域の方に褒められ、自信がつき、次への意欲へつながる。国語主任、児童会担当を中心とした「群読集会」、全校共通のノート指導、朝学習(国語算数)、放課後の算数教室等を設定し地域の方の支援を受け実施している。

群読集会



ノートと板書の連動



【被災地・陸前高田市立広田小学校との交流】

本校は、平成25年度より、陸前高田市立広田小学校との交流を行っている。本校から手作りカレンダーを届け、広田小からは活動の写真とお手紙が届く。児童に防災意識を高め、ボランティア精神を養い、将来、地域の安全を自分たちの手で守ってほしいと願っている。

復興支援物産展



カレンダー



手紙と写真



【横断幕で家庭、地域へ発信】

横断幕や幟旗で、子どもたちの活躍を大きく取り上げることで、家庭、地域への発信とともに、子どもたちの学校への誇り、自分への誇りをもたせることをねらいとしている。そして、他の子たちが「僕にも私にも可能性がある」と大きな目標に挑戦してほしいと願っている。

横断幕



幟旗



幟旗



【校長として取り組んでいること】

全校朝会短冊で話をし、全校児童一人一人からの感想を読んで朱書きし返している。また、学期のまとめテストでは100点とれた児童に校長パーフェクト賞を授与する。そして、学校に早く慣れてほしいという思いから、1年生とは4、5月にお話を、2年生は1、2月に「かけ算九九検定」を、3～5年生は5～12月に「言葉の力検定」を、6年生とは2月に給食会を行っている。

全校朝会



今月の全校朝会



パーフェクト賞



かけ算九九・言葉の力



検定合格証



校長とお話会



4 おわりに

「子どもは国の宝であり、職員は家族」。校長として、個々の教職員が最大限に能力を發揮し、「チーム高州東小」としての学校力を十分に高め、具体的な方策を示し実践することで、誇り高き子どもの育成を期する。

〔研究領域〕 I 学校経営

第3分科会 評価・改善

〔研究課題〕 学校教育の充実を図る評価・改善の推進

〔視点〕

①「新たな知を拓く」教育を実現するための学校経営の評価・改善

提案者 川口市立木曽呂小学校長 岩本 好 則

1 はじめに

校長は、学校経営方針に基づき、学校経営・教育実践を進めるとともに、絶えずその評価・改善に取り組み、学校教育の充実に努めなければならない。また、常に学校経営や教育活動の改善に努め、評価をより実効性あるものとし、説明責任を果たす必要がある。

教職員人事評価においても、教職員の教育活動への取組状況を適切に記録・評価し、それに基づいた指導・助言を重ねることで、教職員各自の意識改革や能力開発を促し、学校の組織全体の成長・発展につながるように進めることが大切である。

(第66回全連小埼玉大会研究収録より抜粋)

2 地域と学校の概要

本校は、川口市の北部に位置し、北側に見沼の自然が残る台地を有し、近くには見沼田んぼや見沼代用水の斜面林があり、低地と台地が織りなす変化に富んだ豊かな自然の中に位置している。

本校は、平成8年川口市内46番目の小学校として開校し、本年度で21年目をむかえる。校舎は、教室に続く広い空間やゆとりある広い廊下、多人数が使用可能なランチルームなどを備えた、オープンスペースの新しい構想で建築されている。昨年度は、「学校保健」の分野で文部科学大臣表彰を受賞するなど学校保健の活動にも重点を置き、健康づくり推進に向けて、全職員で共通理解・共通行動の指導の徹底に取り組んでいる。



3 学校教育目標

主体的に学習し、感性豊かな心を持ち、心身共に調和のとれたたくましい児童の育成

○進んで学ぶ 【主体的に学習】

○豊かな心 【感性豊かな心】

○たくましい体 【心身ともに調和のとれたたくましさ】

4 実践の概要

校長は、保護者・地域住民から信頼される学校づくりを目指さなければならない。保護者・地域住民から信頼される学校経営を推進するためには、学校を開くとともに、学校改善につながる学校評価と人事評価を関連づけて取り組み、教職員の人材育成を図りつつ、充実した教育活動を推進することが重要である。



(1) 「C」「A」を重視した学校評価の取組

① 校長は学校の広報マン

学校経営方針を策定するにあたっては、学校評価アンケート項目とも一致していることが重要である。そうすることで、教職員のみならず、保護者・地域が同じベクトルで学校改善に向かうこととなる。また、学校経営方針を保護者や地域へ浸透させるために、学校だよりやホームページへの掲載はもとより、地域の諸活動への参加などあらゆる機会と場を活用して理解いただくことに努めている。さらに、保護者や地域に御理解いただくためには、分かりやすく端的に示すことも重要であると考え

② 学校公開「保護者アンケート」の活用

学期に一回実施の学校公開では、本校児童の課題と学校評価の視点に基づいた保護者アンケートを実施し、集計の結果から学校全体で「子どもたちのために」という視点で日常の教育活動と結びつけながら改善策を検討している。その際、「個人→グループでの討議→全職員での共有」というステップと、「それぞれの考えを出し合いより適切な結果を導き出す『対話』の活用」を重視し、教職員の共通認識と新たな気づきを生み出せるようにしている。

【児童数で配布です】 学校公開アンケート用紙

川口市立木曽呂小学校

日頃から本校の教育活動に御協力いただきありがとうございます。
本日は、学校公開に御来校いただきありがとうございました。今後の参考にさせていただきますので、アンケートに御協力下さい。どうぞよろしくお願い致します。

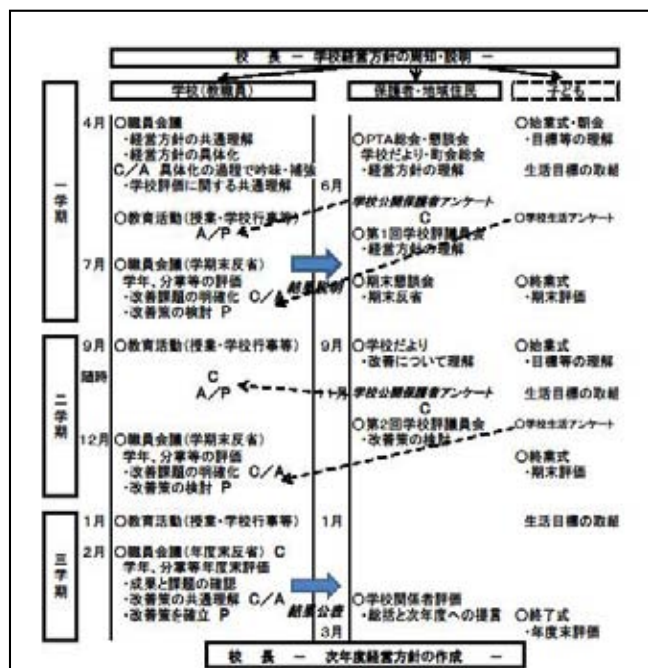
年 組・お名前

あてはまる欄に○を付けて下さい

No.	項 目	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
1	児童は、よくあいさつができています。				
2	児童は、時間を守って行動しています。				
3	児童は、体力向上のため外でよく遊んでいる。				
4	児童は、授業中、先生や友だち				

③ 「C」「A」を重視した経営改善

P D C A方式の評価サイクルを基本に、経営改善を行うにあたり、特に「Check」「Action」という視点を大切に学校経営を推進している。特に「A」において検証の結果、良い点は継続し、悪い点は積極的に改善をする。中でも、危機・安全管理に関する内容は、早急な対応と改善を図っている。



(2) 人事評価と人材育成

人事評価の当初申告は、学校経営方針の「目指す学校像」や学校運営上の教職員個々の果たす役割を反映させたものでなければならない。目標の設定にあたっては、

丁寧な当初面談によって具体策を絞り込み、数値目標をあげるなど年度末に客観的な評価ができるようにしている。

① 評価領域Ⅰを日常的に意識させる取組

日々、多忙な業務をこなす教職員は、当初申告した目標や方策を忘れがちである。そこで、評価領域Ⅰで自己申告した視点での授業観察を実施し、参観後は、自己申告した視点に対する取組や成果、改善点等を面談を通してフィードバックに努めている。

授業参観の視点

川口市立木曽呂小学校

平成28年 月 日 () < 校時 > 科「

(年 組) 指導者氏名

先生

自己評価シート	授業参観の視点
	1 目標や指導内容の明確化
	2 発問・指示の明確化
	3 問題解決的な学習
	4 作業的・体験的な

② 評価領域Ⅱ・Ⅲを日常的に意識させる取組

評価領域ⅡとⅢについては、日常的に実施する校内巡視からはもちろんのこと、各学期末通知票点検、返却時の面談を通して、当初申告した内容を想起させている。その際、取組状況は教職員のモチベーションを保ち、継続的な改善活動を有効に機能させる活動も含め、今までの結果を踏まえつつ学校経営の質の充実を図ることにつながるよう留意している。

先生

いつも木曽呂小学校の研究推進のために、御尽力いただいていることに感謝申し上げます。

本年度は、教職員研究推進の「要」である研究推進委員長と第2学年主任をお願いしております。特に、本年度は川口市教育委員会委嘱研究

さて、学年・学級経営についてですが、目標に掲げた「学年間での報告・連絡・相談・確認を・・・組織的・計画的な学年経営・生徒指導を行う。」の進捗状況はいかがでしょう。学年構成上、学年主任に負担が大きくなっていることと思います。特に、初任者、臨任者へ指示するときには「何を、いつまでに行うか。」具体的にお願いします。そして、それができているかの「確認」を主任の目をお願いします。方策にある「①情報の共有化を行い共通理解、共通行動をとる。」については、よく学年

5 おわりに

校長が的確に学校課題を分析し、意図的、計画的に学校経営を行うことで、児童を育て教職員を育成し、学校課題を組織的に解決できるようになる。評価活動は、あくまで途中経過であり、常に改善し進化することが求められる。この評価の意義を教職員一人一人に浸透させ、日常的に改善活動を進めていこうとする学校をつくり上げるのが重要と考える。

【研究領域】 I 学校経営

第3分科会 評価・改善

【研究課題】 学校教育の充実を図る評価・改善の推進

【視点】

②学校づくり・人づくりを推進するための学校評価・教職員人事評価の工夫

提案者 行田市立北小学校長 森 田 豊

1 はじめに

社会の急速な変化と国を超えて発生する多様な課題から、21世紀は「予測困難な時代」と言われている。その時代を生きる子ども達には、あらためて「生きる力」を身につけさせなければならない。

こうした中、学校では、未来を見据えた明確なビジョンに基づく目標の設定、実践を通して、学校づくり・人づくりを推進していくことが求められている。

ここでは、今年4月に最終改正が行われた教職員人事評価の取組の工夫を中心に、学校評価との連鎖、評価者と被評価者の共通理解と教職員の参画意識の向上を柱として、今年4月から取り組んだ実践を紹介する。

2 本校の概要

本校は、埼玉県名発祥の地であり、「さきたま古墳群」並びに「古代蓮の里」を有する行田市の中心部、旧行田市の北部に位置している。学区には川と用水路が多く、豊かな自然を感じることでできる環境にある。

学校の歴史は古く、明治34年10月7日に星河尋常小学校として開校しており、今年で115年目を迎える歴史と伝統のある学校であり、地域に多くの卒業が居住する「地域とつながりの大きい学校」である。

5月1日現在の児童数は405名、教職員24名（うち市費3名）である。

3 本校の実践

(1) 地域と共有する教育ビジョン

行田市では、行田市民憲章及び行田市教育大綱「未来を開く人材と文化をはぐくむまちづくり」に基づき、元氣な行田・未来の行田を担う子どもの育成に取り組んでいる。

このため、行田市内では校長会を含む様々な行事の際に、行田市民憲章を唱和し、まちづくりのビジョンを共有する機会を日常的に持っている。市全体で「まちづくりのビジョンを共有」しているのである。

学校づくり・人づくりを推進するためには、行田市が取り組んでいるように、明確な理念に基づく目標、ビジョンを保護者や地域と共有することが大切であり、その上で、実現に向けた具体的な方策を立て、実践していくことが必要である。

そこで、本校においても、市民憲章及び行田市教育大綱に示された目標を受け、本校の教育目標、その達成に向けて推進すべきことがらを職員、保護者、地域と共有することが必要だと考え、年度当初に学校経営方針を示す「スクールプラン」を作成（右図）し、教職員とビジョンを共有するとともに、4月の授業参観で保護者に説明し、その実現に向けた具体的方策を提示するとともに、ホームページに公開した。また、6月の学校評議員会で

具体的方策を交えて説明する機会を設けた。

また、指導の重点・努力点については、前年度の学校評価を踏まえたスクール・マニフェストの形式に改めた。こうすることで、保護者や地域に、学校が何を目標とし、どのように取り組んでいるのかを示し、保護者や地域の期待に応える学校づくり、人づくりを推進していきたいと考えたからである。

さらに、これらの項目は、校長の自己評価シートの目標と連鎖させ、より具体的かつ詳細に、実施内容、実施時期、目標数値等を示した。教職員がこれを受けて当初目標及び具体的方策を立案することで、スクール・マニフェストの実現に向けた取組が行われる仕組みとなっている。

このように、学校評価と教職員人事評価が連鎖、連動する形で目標が設定され、実践への取組が行われることで、学校は一体感をもって動き出す。そのためにも、教職員や保護者、地域に向けて、明確なビジョンとより具体的な目標を、わかりやすい形で示すことが、実践への大きな力になると考える。



【平成28年度スクールプラン】

(2) PDCAサイクルを確立するために

本校における学校評価は、学校評価委員会を中心に行われており、年度末の学校評価委員会への報告と、そこでの意見をもとにした具体的な改善策の立案までがスムーズに行われるなど、制度として確立されている感がある。

しかし、経験年数の短い教職員や臨時的任用教員が多く、年度替わりに教職員が大きく入れ替わり、校務分掌も変更が多いことから、課題及び改善策を継承する力が弱く、結果として、学校評価に多くの時間を割きながら、PDCAサイクルが確立されているとは言えない状況にあった。

このため、前述の「スクールプラン」における、「指導の重点・努力点」の各項目を、前年度の学校評価をふまえて設定するとともに、校長の自己評価シートと連鎖

